

**鹿兒島支店**  
**企業が取り組むSDGs  
 地域の実践事例を紹介**

「第11回食と農を結ぶ交流フォーラム」を、鹿兒島県農業法人協会と共催。「企業価値を高める地域貢献・社会貢献活動とは」SDGsに取り組みよう」をテーマに講演や事例の発表がありました。

基調講演では、城山観光株式会社SDGs推進室長の安川あかね氏が登壇。SDGsの取り組みをいかに社内浸透させ、意識改革を図ったかについて語りました。また、生産者、小売店、コンサルティングそれぞれの立場からの事例が紹介されました。

1月18日、参加者：113人（オンライン含む）



「地域と共に考え、共に歩む」を合言葉とした南州農場代表取締役本田玲子氏の発表の様子

**札幌支店**  
**税務や実体験など  
 事業承継を学ぶ講演会**

公庫お客さまの交流会「フードネットin北海道」を3年ぶりに開催。税理士で上級農業経営アドバイザーの細川拓厚氏が、「農業の経営承継」円滑な事業承継に向けて」をテーマに講演し、「後継者には早めに地位を与え経験させることが大切」と力説しました。また、新篠津つちから農場株式会社（玉ねぎ生産・販売／新篠津村）代表の中村好伸氏が、自身の事業承継の経験について話しました。

参加者からは、「問題意識を持つて計画的に事業承継に取り組みたい」などの感想が寄せられました。

1月23日、参加者：110人



細川拓厚税理士の講演の様子

**近畿地区  
 総括課**  
**林業関係者の交流会  
 GXとJークレジット学ぶ**

近畿地区で林業を営むお客さまの会「公庫近畿地区林業友の会」を3年ぶりにリアル開催。農林水産省環境バイオマス政策課の清水浩太郎氏が「農林水産分野におけるGX（グリーン）トランスフォーメーション」の取り組み、「林野庁森林利用課の増山寿政氏が「Jークレジット制度を活用した林業経営の進め方」について解説しました。

JークレジットのCO<sub>2</sub>吸収量の計上方法、海外の排出権取引状況などに関する意見が活発に交わされ、「制度への理解が大きく進んだ」といった声が寄せられました。

1月26日、参加者：9人



講師を囲む林業友の会メンバー

**津支店**  
**農水産業の現場を視察  
 バスツアーでマッチング**

三重県農林水産部、株式会社エイチ・アイ・エス、日本プロ農業総合支援機構と連携し、「バイヤーズミーティング&ファームツアー」を開催。三重県農水産業や県産農水産物の魅力発信や取引拡大につながるべく、三重県産の食材を使った試食会と生産現場を巡るバスツアーを実施しました。

当日はその場で商談が進行するなど、盛況ぶりがうかがえました。参加者からは、「熱い想いを持ったバイヤーや農水産業者と引き合わせてもらいたい」などの声が寄せられました。

1月26～27日、参加者：47人



臨場感ある「いけす」での取材の様子

**大阪支店**  
大阪農業の未来に向けて  
各機関が多様な支援

J A いずみのなどと連携し、大阪農業の未来の担い手育成・確保に向けた新規就業説明会を開催しました。

基調講演では、熊本県南阿蘇村で観光いちご狩り園を中心に、加工・流通など経営の多角化を進める有限会社木之内農園代表取締役の木之内均氏が、みずから新規就業した際の経験や、農業経営で大事にしていることなどを語りました。その後、J A いずみの、府の農業大学校などから幅広い就農支援策について説明しました。

1月27日、参加者：58人（オンライン含む）



経験談を織り交ぜた講演に、質疑応答も熱を帯びました

**常広支店**  
十勝・根釧の食をPR  
東京のフレンチ店で商談会

十勝・根釧の知られざる逸品を関東圏のバイヤーに紹介する「バイヤーズミーティング in 東京虎ノ門」を、日本プロ農業総合支援機構と共催しました。

都内のフランス料理店で開かれたこの商談会には、生産者10先とバイヤー13先が参加。こだわりの農産物を使った料理を囲みながら、生産者による自社製品のPRや、バイヤーとの活発な質疑応答がおこなわれました。バイヤーからは、「品質の高さが伝わった。取り扱いを検討したい」といった前向きなコメントが寄せられました。

1月31日



料理を楽しみながら交流する生産者とバイヤー

**盛岡支店**  
新規就農者に提供  
経営に活かす交流の場

新規就農者の交流を目的として「アグリネットワーク2023青年の集い」を開催（共催：岩手県、岩手県農村青年クラブ連絡協議会、岩手県信用農業協同組合連合会／後援：公益社団法人岩手県農業公社）。日ごろの活動実績の発表と研修の企画書を作成するグループワークがおこなわれ、就業時の問題や経営の悩みを共有する場となりました。

参加者からは、「参考になるテーマが多く、今後に活かしたい」「先輩農家の失敗談も聞きたい」などの感想が寄せられました。

2月7日、参加者：45人



企画書作成のブレインストーミングでは、活発な意見交換が繰り広げられていました

**松江支店**  
地域経済を考える  
水産関係者向け講演会

漁業者や水産加工会社などが集う「水産講演会」を、一般社団法人境港水産振興協会、境港商工会議所水産業部会などと共催しました。

33回目となる今回は、学習院大学名誉教授の内野崇氏が、「何事も『見方を変える』と世界（観）が変わる——生きるヒントと経営のヒント」をテーマに講演。既成概念や常識を時々疑い、柔軟な発想を持つことの重要性について、ユーモアを交えながら話しました。

参加者からは、「自社の経営や境港市経済の未来を考える参考になりたい」などの感想が聞かれました。

2月24日、参加者：62人



「世界情勢が大きく変動する昨今、気概と強靭さと好奇心を持って生き抜くことが大切」と語る内野氏



◆当地も春めき、水は田に、草は牧に満ちる一年で最も活気があり大切な季節となりました。

春1号の記事を拜読。肉用牛繁殖経営をおこなう私も、地域の農事組合法人と飼料確保で連携しています。この法人の成り立ちは古く、地域と行政の「目的の共有」が起点と聞き及んでいます。私も、これに参加し、はや15年が経過、現在もその恩恵を受けています。

顧みれば今も連携が続くのは、金銭的な部分だけでなく互いの利益を共有し、共に発展「する」「させる」関係が奏功したからだと思えます。併せて利益の均衡と、常日ごろから相手を推し量る心の存在があったからと深思します。

農業を続けるために大切なことは、生産する側、それを利用する

側、そして、これらを調整する行政の三者が常に均衡を保ち、それぞれの目的に到達できるようにすることだと思います。

今「持続可能な」という言葉をよく見聞きします。本来、農は太古から脈々と受け継がれ続いてきたもので、今始まったものではないと思います。未来永劫、農を営むうえで経営規模の大小、新旧にとらわれない、あらゆるつながりが、発展と継続をもたらすと思います。

一方、「農と食の邂逅」の前田牧場のように、生き物としての家畜と人間の心のつながり（共存・共栄・共助）を実践することも、極端な言い方をすれば、今求められている「持続可能な」農への近道ではないかと、私は思います。

（山梨県北杜市 菲澤靖）

## ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)

※こちらのコードも  
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

## 編集後記

◆今号より小誌の編集に加わりました。よろしくお願ひします。今号取材を通じ、有機農業という手段で地域資源と向き合い、地域を守ろうとする生産者や自治体の想いを強く感じた。一方、有機農業の推進にあつては「消費者の理解の増進」も鍵を握る。「消費者として生産現場を想像し有機食品の価値をあらためて理解していきたい。」（細谷合）

◆「新・農業人」の書き出しは、岸川さんのハウスを訪れたときの驚きをそのまま表現しています。今まで、区画整理されてまとまっている農地は数多く見てきました。が、同じ有機野菜の仲間と一カ所で生産に取り組めるというのは聞いたことがありません。この場所が有機農業の広がり核になっていると実感しました。（大谷）

◆「農と食の邂逅」の取材当日は、雨が降りあいにくのお天気でした。しかし、撮影が始まると幸運なことに小降りになるのです。雨が止み、まわりを見渡すと山に靄がかかり幻想的で日本の原風景を思い起こすよう。奈穂子さんの想いのこもった生産物は、変わらないこの土地で、自然と共に丁寧に作られた結晶なのだと思います。（澤田）

◆今号を通じ、「毎日ごはんを作るための買い物」が、農業の未来を決める重要な要素になっているのだと認識を新たにしました。環境や農業を守るための確実な方策が見えないなか、私たちはこの先、どんな食を望み選んでいくのでしょうか。今、有機農業について真剣に考えることが、消費者に求められる役目なのだと思います。（竹中）

## AFCフォーラム 2023.6 春2号

### ■編集

前川 紘輝 細谷 哲郎 高雄 和彦  
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子  
竹中 夕美

### ■編集協力

村田 泰夫

### ■発行

株式会社日本政策金融公庫  
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail [anjoho@jfc.go.jp](mailto:anjoho@jfc.go.jp)

ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

### ■印刷

株式会社第一印刷所 東京本部

〒110-0003

東京都台東区根岸2-14-18 第一根岸ビル

国産にこだわり

農

と

食

をつなぎます

第16回  
アグリフード  
EXPO東京

国産農林水産物・食品の商談会

4年ぶり  
となる  
東京での  
開催

日時 2023年

8月23日(水)・24日(木)

10:00~17:00

10:00~16:00

会場

東京ビッグサイト  
東4ホール

オンライン商談会

2023年

5月8日(月)~9月29日(金)



← 出展者情報など詳細はこちらから(公式HP)

[主催]



日本政策金融公庫

●お問い合わせ先 「アグリフードEXPO」事務局 エグジビジョンテクノロジーズ株式会社

TEL:03-5775-2855/FAX:03-5775-2856 E-mail:agri@exhibitiontech.com